



(左から)実行委員の吉澤さん、同 三宅さん、市長、同 後藤さん、同 林さん

これからも元気に活躍ください

75歳を迎える人を対象に開催する「いきいき長寿のつどい」が中止となったため、11月19日に記念品贈呈式を市役所で行いました。

75歳を代表して出席した実行委員の後藤さんは「地域の絆づくりや支え合い活動に積極的に参加していきたい」、同じく吉澤さんは「新型コロナに負けないよう予防に努め、毎日元気で過ごせるようにしたい」と思いを語りました。なお、記念品は対象者へ送付しています。

自助・共助ができる力を

11月20日、旭小学校6年生児童が避難所運営・避難生活体験をしました。市防災安全課と可児市防災の会が講師となり、児童たちは校舎内の危険な場所と身を守る行動について考える災害想像ゲーム（学校版DIG）や避難所の受付から入所の体験などを行いました。

災害時の簡易トイレ設置体験をした佐藤悠馬君は「実践するのは難しそうだけど、本当に災害が起きた時はできるだけ頑張りたい。家に帰ったら地震で倒れそうな物がないか確認したいです」と話しました。



災害時の簡易トイレ設置体験をする佐藤君



職員の説明を聞く清水さん夫妻▲

初公開した作業小屋の中▶

豊蔵の作業小屋を初公開

11月21日～23日、荒川豊蔵が美濃桃山陶の再興にいそしんだ「作業小屋」「窯」や、久々利大萱の古窯から採集した約400年前の陶片を特別公開しました。

22日に訪れた清水さん夫妻（岐阜市在住）は「去年は廃屋のようだった小屋がこんなに綺麗に見えるようになってびっくり！」と感動した様子で話してくれました。期間中は多くの方が訪れ、皆さん思い思いに鑑賞し、この地の歴史を感じていました。

現代の名工がここに

11月25日、卓越した技能者として厚生労働大臣表彰を受けた瓦ふき工の丸茂好夫さんが喜びの報告に市役所を訪れました。

丸茂さんは、32年前に義父の仕事を継ぐ決心をし転職。一般住宅をはじめ、弘福寺（中恵土）や永保寺（多治見市）などの社寺の瓦ふきを手掛けてきました。「義父も受賞した賞を2代にわたり受賞することができた。雨を漏らすなという教えのもと、丁寧な割り付けを続けてきた」と仕事で大切にしていることなどを話してくれました。



丸茂さんと卓越技能章の盾

明智光秀博覧会

特大号

大盛況！秋の大感謝祭

11月14日、15日に、花フェスタ記念公園で「戦国秋の大感謝祭～麒麟がくるぎふ可児 大河ドラマ館～」が開催されました。14日は、大河ドラマの時代考証を務める小和田哲男さん（静岡大学名誉教授）と小栗さくらさん（歴史タレント）によるトークイベントや、各地から集まった武将隊の演武で観客を盛り上げました。15日には、中日ドラゴンズのマスコットキャラクター「ドアラ」と5人の「チアドラゴンズ2020」が、息の合ったダンスなどで詰めかけたファンを魅了しました。

15日のイベントに来た名古屋市在住の森木正博さんは「グッズ抽選会でまさかサイン入りボールが当たるとは思ってもみなかった。初めて花フェスタに来たが、花がとても綺麗で癒される。必ずまた来たい」と話してくれました。



各地から集まった武将隊



『明智光秀が生きた時代』をテーマにトークする小和田教授



「燃えよドラゴンズ！」の曲とともに観客の視線は「ドアラ＆チアドラ」にくぎ付け！



勝野昌慶選手（可児市出身）のサイン入りボールが当たった森木さん夫妻

たくさんの愛が咲き誇る♡

11月22日の「いい夫婦の日」にちなみ、21日～23日に「あけちゅうー明智荘の中心で愛をさげぶー」が開催されました。大河ドラマ館では、入館時に温かい言葉を掛け合った夫婦やカップルに、花フェスタ記念公園オリジナルの入浴剤をプレゼント。特設フォトブースが設置された可児市役所では、22日に入籍したカップルに大河ドラマ館と花フェスタ記念公園のペアチケットなどをプレゼントしました。

11月21日



イベント初日に来館した大脇さん一家

「明日22日で結婚して9回目の記念日。いつもありがとうございます（夫）」

「これからも健康に気をつけて、お互い頑張りましょう（妻）」

11月22日



市役所特設フォトブースで記念撮影をした古山さん夫妻

「市長にもお祝いしていただけて、一生に一度の記念日がさらに思い出深い日になりました。いただいたチケットで、2人でドラマ館に行こうと思います」